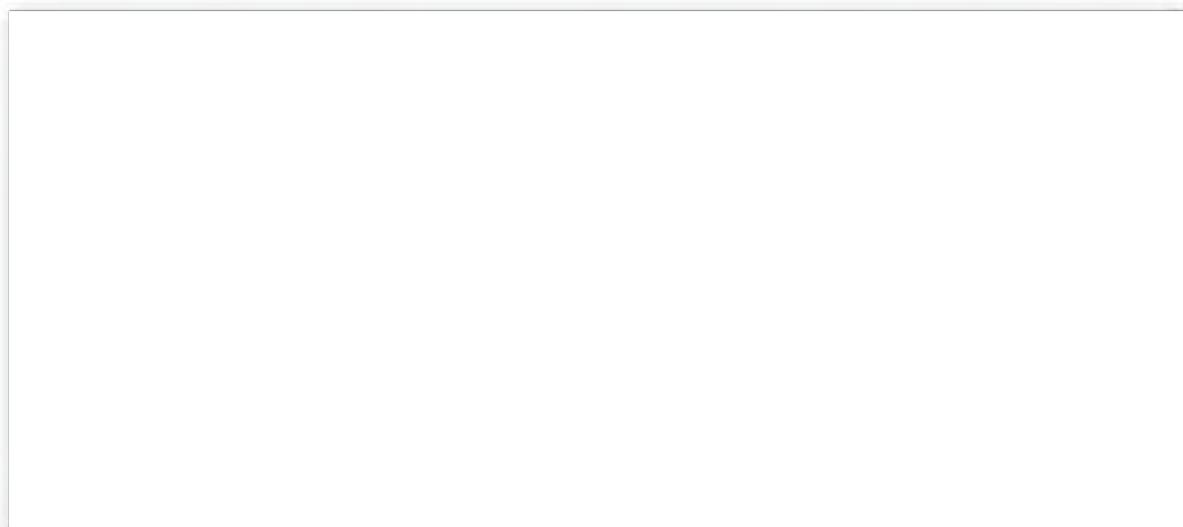


石川県立美術館だより

平成 19 年 7 月 1 日発行 第 285 号

特別陳列 前田家の名宝

前期：6月28日(木)～7月17日(火) 後期：7月21日(土)～9月2日(日)



国宝「十五番歌合」部分(前期展示)

特集

加賀の美術工芸(前期)
石川県ゆかりの
芸術院会員・人間国宝

6月28日(木)～7月17日(火)会期中無休

目次

前田家の名宝	2	コレクション展示室 主な展示作品	6
加賀の美術工芸	3	ミュージアムレポート	7
石川県ゆかりの芸術院会員・人間国宝	3	7月の行事予定	7
展覧会回顧	4	所蔵品紹介	8
今月の企画展示室	5	ミュージアムショップ通信	8
バスツアー・現地見学の今年度予定	6		

今月のコレクション展示室
(前田育徳会・尊經閣文庫展示室)

特別陳列 前田家の名宝

前期:6月28日(木)~7月17日(火)

後期:7月21日(土)~9月2日(日)

財団法人前田育徳会は、かつての加賀藩前田家に伝来した数々の文化財を収蔵・保存管理しています。その中でも、書籍・典籍・古文書類では質・量ともにわが国のトップレベルの内容として知られる尊經閣文庫を運営しています。同文庫は、その名称が示すように五代藩主綱紀の収集になる「尊經閣蔵書」を主に、三代藩主利常収集の「小松蔵書」や四代藩主光高収集の「金沢蔵書」も含まれています。和書のほか漢書・韓書などもあり、また写本や稀書古記録・古文書などきわめて広い分野に及んでいます。

今回は、尊經閣文庫のなかからは初公開の作品を含め、久方ぶりに公開する歌合や御宸翰を主とした指定文化財を展示します。また絵画・金工・漆芸・染織をあわせて展示し、加賀藩主の知的好奇心が育んだ豊かな文化を再認識いただけるものと思います。今日指定文化財は、国宝二十一点、重要文化財七十六点の合計九十八点にも及びますが、本展は国宝四点、重要文化財八点を含む五十五件の作品を、保存管理上三期の会期に分けて展示いたします。

それでは、前期に展示する作品を紹介いたします。

国宝 十五番歌合(彩箋) 平安時代 表紙参照

時代の異なる古今の三十歌仙の秀歌三十首を、一首ずつ左右に分けて番えたもので、藤原公任の撰とされ、蟬摺りや雲母摺りの文様が施された料紙二十二紙をつないだ卷子装です。そのうち十三紙(二十一首)は江戸時代の後補で、七番紀友則から十一番斎宮女御に至る九紙八首が当初のものです。書風は独草体の大ぶりな草仮名で万葉仮名が多く用いられ、仮名発達の過程をつかがう上でも貴重な史料です。

国宝 歌合十卷本(五巻の内巻第一) 部分

国宝 歌合(十卷本) 平安時代

歌合とは、歌人が左右に分かれて詠歌を一首ずつ出し合い、判者が批評して優劣を決める遊技で、和歌史上重要なものです。『十卷本歌合』と通称されるこの『歌合』は、仁和年間(八八五~八八九)の「民部卿行平卿家歌合」から天喜四年(一〇五六)の「皇后宮歌合」に至る四十六の歌合を十巻に集大成したもので、関白藤原頼通の命による編纂とされています。個々の歌合について複数の証本をもとに積極的な校訂を行っており、古代の歌合の成立についてその原型を知る上で貴重な史料です。また、寄合書であるため書風は種々に分かれませんが、能書家の手になる仮名の名跡としても注目されます。巻第一・三・十を順に展示します。

重文 本朝麗藻卷上 鎌倉時代

平安時代の漢詩文集で、編者は高階積善です。上巻は首尾を欠きますが、春夏秋冬の四季から成り立っていたとみられ、現存詩数は五十首です。下巻は山水・仏事・神祇など十六部門に分かれ、百首を収めています。本帖は巻上の唯一の古写本で、包紙の綱紀の墨書等から、金沢文庫に伝来し、綱紀の時代に前田家に入った経緯がわかります。

国宝・重要文化財の展示替一覧

六月二十八日(木)~七月十七日(火)

国宝 歌合(十卷本) 巻第一

国宝 十五番歌合(彩箋)

重文 本朝麗藻卷上(初公開)

七月二十一日(土)~八月十日(金)

国宝 歌合(十卷本) 巻第三

国宝 三朝宸翰 第一巻

国宝 入道右大臣集(彩箋)

重文 彩箋墨書道済集 残巻

重文 神宮神宝函巻 上巻

重文 四季山水図屏風 伝周文

重文 アエナス物語図毛綴壁掛

八月十一日(土)~九月二日(日)

国宝 歌合(十卷本) 巻第十

国宝 三朝宸翰 第二巻

重文 白楽天統古詩断簡(綾地切)

重文 白楽天常楽里閑居詩(初公開)

重文 神宮神宝函巻 下巻

重文 四季花鳥図屏風 伝雪舟

重文 アエナス物語図毛綴壁掛

今月のコレクション展示室
(第2展示室)

加賀の美術工芸

前期:6月28日(木)~7月17日(火)
後期:7月21日(土)~9月2日(日)



重文 四季耕作図屏風(左隻)
久隅守景

第2展示室では、休館期間に入る前日の九月二日(日)まで、「加賀の美術工芸」というテーマで、本館が所蔵する古美術作品の中から、特に皆様からの問い合わせの多い作品・絵画・工芸作品を中心に紹介します。途中展示替えを行います。休館前最後の展示です。お見逃しなく。

七月十七日(火)までは、久隅守景の『四季耕作図屏風』を中心に紹介します。「四季耕作図」とは、田植えから稲刈りに至る春から秋にかけての農作業の様子を、農村ののどかな風景の中に描き込んだもので、守景は、この画題を多く手掛けた絵師として知られています。本館が所蔵する重要文化財の『四季耕作図屏風』は、守景による同図の中でも、もっとも優れた作品として知られるもので、展示に関する問い合わせの多い作品でもあります。

本図の特徴は、元々中国から入った画題である「四季耕作図」を、見事に和様化させたところにあり、春から夏、夏から秋にかけての季節の移り変わり、茶屋で休息する人々や旅人の姿を交えながら、穏やかに表現されています。守景は、はじめ中国的要素の強い「四季耕作図」を手掛け、後に和様化させていったと考えられていることから、本作品がその完成型として位置付けられているのです。

一方、唐様の「四季耕作図」としてよく知られているのが、石川県指定文化財の『四季耕作図屏風』(通称・山川本)です。唐服に身を包んだ人々が描かれており、前述の重要文化財の『四季耕作図屏風』とは異なる雰囲気であることがわかります。農作業を行うのも牛ではなく口バであり、両図を比べながらこうした違いを見つければ面白いかも知れません。

この他、前期の展示では重要文化財「蒔絵和歌の浦見台」や五十嵐派の硯箱など、加賀蒔絵の作品を紹介します。

なお、後期の展示では、同じく五十嵐派による秋草の硯箱をはじめ、俵屋宗達、尾形光琳、俵屋宗雪などの作品を紹介する予定です。

石川県は、江戸時代、加賀藩前田家の領域でした。前田家の歴代藩主は文化政策に意を用いたことで広く知られています。とくに加賀藩には「細工所」という今日的な意味での工芸工房の組織があり、蒔絵の五十嵐道甫、清水九兵衛、金工の後藤祐乘など当代一流の優れた工芸家が指導者として招かれ、前田家の調度品を制作したり、後継者の育成に力を注ぎました。現在、「加賀蒔絵」「加賀象嵌」「加賀友禅」といった、「加賀」と名のつく工芸技術はこのようにして江戸時代に育まれたものです。加賀藩の保護育成によって発達したこれらの美術工芸は、明治維新の藩制崩壊によって一時衰退しますが、国策としての殖産興業面から復興し、他の地方の美術工芸が衰微していく中で石川県の美術工芸は、江戸時代に引き続いて高度な技術水準が保たれました。

大正から昭和前期にかけて、明治期の産業中心の工芸運動から次第に脱却して、純粹なる美術工芸としての歩みを見せ始め、昭和二年(一九二七)、帝展第八回展から第四部として工芸美術部門が開設されると、さらに飛躍の機会が訪れ、東京、京都と並んで全国的にも注目される工芸県として躍進します。

戦後も帝展の流れをくむ日展の工芸を中心に展開されますが、昭和二十九年に、伝統的な技術と用を中心とした日本工芸会が設立され、日本伝統工芸展が開催されますと、石川の工芸も大きくこの二つの流れに集約されます。日展出品者の中から蓮田修吾郎、十代大樋長左衛門、三谷吾一が日本芸術院会員に就任、日本伝統工芸展出品者の中から大場松魚、川北良造、三代徳田八十吉、吉田美統、三代魚住為楽、中川衛、前史雄、小森邦衛、それに金沢出身の羽田登喜男が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。本展示は、收藏品の中からこれらの人々をはじめ、これまでに芸術院会員、人間国宝になった石川県ゆかりの作家の作品を特集展示するものであります。

(第5展示室)

石川県ゆかりの
芸術院会員・人間国宝

6月28日(木)~7月17日(火) 会期中無休



輪花「花器」十代大樋長左衛門

展覧会回顧

生誕100年 モダンの煌めき 高光一也の画業

今回の展覧会で、改めて思いめぐらしたことがありました。農婦についてです。高光先生は農婦をテーマにずいぶん描いてらっしゃった。先生は昭和7年に静物画で帝展に初入選され、翌8年は、ちょっとモダンな若い女性とミシン台をテーマに描いて落選の憂き目を見てしまいます。この悔しさは相当なもので9年は帝展出品を控え、構想をじっくり練るのでした。

この頃の画壇は第9展示室でご覧いただいた師中村研一の巨大な「弟妹集う」や「瀬戸内海」等に見られる、「しゃれて物憂げな」男女の群像が流行していたのですが、この方向を求めてはとても都会の作家にかなわないと痛感されたのでしょう。田舎住まいの武器は何か。高光先生は農作業の合間に憩う農婦達をテーマにして、土臭さを前面に出して、中央画壇に挑むことを決意するのです。

今回の展覧会では、勝負の一作ともいふべき二百号の大作「秋」や「秋」、農婦が藁床に横たわる「藁の上」など、農婦の代表作がずらっと並びました。これらはすべて展覧会に向けて描いた作品ですが、手頃で商品となりうるサイズの作品まで描いてらっしゃることを、今回の展覧会の準備中に知り、展示させていただきました。

昭和10年頃からの戦中期、先生はミレー達バルビゾン派の画家のような農民画家であったともいえるのではないのでしょうか。ここには仏教者であった父大船や、暁鳥敏達の思想的な影響もあったことでしょうし、また同世代で東京美術学校油画科を卒業し、まったく同時期に浮浪者や貧しき人々をテーマに帝展・文展で受賞を重ねた、志賀町出身の南政善の存在も大きかったのではないかとと思うのです。大正末から昭和初期にかけての「プロレタリア美術」の高まりの中に、この時期の二人の作品を見るべきかと、第7展示室に並んだ農婦達を見ながら考えたものでした。



特別公開 「百工比照」

百工比照は加賀藩五代藩主前田綱紀が、藩内の文化や産業の振興のために、収集・整理・分類した工芸全般にわたる資料の集大成で、綱紀自らが名付けたもので、学者大名としての綱紀の性格が如実に反映されたコレクションです。

今回のような百工比照の大々的な公開は、昭和63年の秋に開催した開館5周年記念 - 加賀文化の華 - 「前田綱紀展」、平成5年の秋に開催した開館10周年記念 - 前田育徳会の名宝 - 「百工比照」に続くものでした。今回は、当館が今秋から約1年間リニューアル工事の休館に入るため、節目の展覧会として前田育徳会展示室で百工比照をとりあげました。百工比照は、各地の産物を収集したもの、注文して作らせたもの、また建物に実際に用いられていた金具類などの実物資料、図示したものや雛形など今日のデザイン見本帳や男性ファッション雑誌に相当するものに分類されます。今回は全作品を展示したわけではありませんが、紙類、貼付唐紙類、外題紙類、金色類、木之類、色漆類、革類、小紋類、打糸類、羽織類絵図、作紋類絵図、金具類(屏風長持金具・彫金押金・引手・釘隠・取手)を選び、鑑賞者の方々には百工比照の全貌をご理解いただけるように

構成しました。

来館者アンケートからは、幅広い年齢層の方々からの感動の声や、何度も来館いただいた方があったことがわかりました。なお、作品が両面のものや展示しきれない作品の、展示替えを望む声もありましたが、ご要望にお応えできなかった点はお許しいただきたいと思います。また金沢美術工芸大学や、金沢学院大学等の授業の一環としてご来館いただき、明日の美術工芸を担う若い学生たちの熱心な鑑賞の姿が観られました。

今回の展覧会では、百工比照の工芸標本としての魅力は言うまでもありませんが、綱紀の壮大な学者的思想とともに、殊に金具類が示すように、祖父利常の深い美意識を後世に残すという綱紀の強い意志を再認識する機会となりました。所蔵者の財団法人前田育徳会をはじめ、県の内外を問わず足を運んで下さった鑑賞者の方々に改めて感謝申し上げます。

今月の企画展示室

第18回 石川県水墨画協会公募展

6月29日(金)~7月3日(火)第7~9展示室)

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同2年に第1回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作品を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的個性的な表現による、楽しい協会展ならではの作品をご覧ください。ただけだと思います。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

入場無料

連絡先 / 金沢市富樫2-3-20

事務局長 森川 節夫

TEL: 076-243-1225

石川示現会

7月6日(金)~7月10日(火)第7展示室)

第60回公募「示現会展」は、本年より会場を国立新美術館(東京六本木)に移し、四月に開催されました。私たち石川県からも多数入選・入賞者を出しました。この本展出品作品を中心に第9回「石川示現会展」を開催致します。

石川県立美術館に於いて四回目となり、25名が一人2点(50号~100号)の出品で、広く県民の美術愛好者の鑑賞をいただき、ご批評賜りひとり一人が努力と研鑽の場にしたいと存じます。

示現会は、日展傘下の洋画団体であり、写実を中心とした理解され易い作品で広く県民の皆様にご好評を得ています。より多くの方々にご高覧いただきたいと念願しております。

入場無料

連絡先 / 野々市町太平寺2-47

示現会石川県出品者協会

代表 神田 直次

TEL: 076-248-8186

第11回 石川県日本画協会展

7月6日(金)~10日(火)第8・9展示室)

県内在住の日本画の作家を中心とした会員の、県内未発表作品による展覧会です。各種公募展の枠組みや既存の概念にとらわれない自由な作品発表を目指し、会員それぞれが取り組んでいる日本画制作の研究・模索の発表の場、また研鑽の場ともなっています。ベテランから若手まで幅広い層にわたり、広く県内日本画家の作品および近年の活動を知る上で、絶好の機会となっています。

入場無料

連絡先 / 金沢市若松町126番地

柳橋 広司

TEL: 076-261-9602

第37回 日彫北陸展

7月13日(金)~7月17日(火)第7~9展示室)

日本彫刻会は、彫刻の美しさ、豊かな生命感、存在感、そして空間との対話を求めて日彫展を開催し、具象彫刻を中心に彫刻の本質をつかむべく、会員相互の研鑽を押し進め、造形芸術の向上に努めている国内では最大規模の彫刻公募団体です。

本展は6月に六本木 国立新美術館で開催した第37回日彫展より芸術院会員をはじめ各受賞作品、会員の選抜された優秀作を基本作品とし、石川、富山の地元出品作、合計約90点を展示します。

是非ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

尚、知的障害者、身障者のかた及び、付き添い者1名入場無料とし触れて見れる作品も展示してあります。(手形マーク添付)

入場料 / 一般: 500円 高大生: 300円 小中生無料

連絡先 / 金沢市弥生2-16-18

得能 節朗

TEL: 076-242-7554

今月のコレクション展示室

主な展示作品

6月28日(木)~7月17日(火)会期中無休

●=国宝、=重要文化財、
=重要美術品、=石川県指定文化財

マライの娘達 宮本三郎



一般 350円	個人	観覧料
大学生 280円		
高校生以下 無料	団体 20名以上)	
一般 280円		
大学生 220円		
高校生以下 無料		

<p>【日本画】</p> <p>水辺 遥か 質屋</p> <p>沢野 慎平 中出 信昭 山本 隆</p>	<p>第6展示室</p> <p>【陶磁】 輪花「花器」 【漆芸】 曲輪造藍胎盤 【金工】 象嵌麗銀花器「岑寂樹林」</p> <p>十代大樋長左衛門 小森邦衛 中川 衛</p>	<p>第5展示室</p> <p>【素描】 マライの娘達</p> <p>宮本三郎</p>	<p>【彫塑】 雨あがり 朋友</p> <p>川岸要吉 野口嘉光</p>	<p>【油彩画】 望郷を歌う 熱叢夢</p> <p>鴨居 玲 宮本三郎</p>	<p>第3・4展示室</p> <p>加賀の美術工芸 四季耕作図屏風 四季耕作図屏風 蒔絵和歌の浦図見台</p> <p>久隅守景 久隅守景 伝清水九兵衛</p>	<p>第2展示室</p> <p>●色絵雉香炉 色絵雌雉香炉</p> <p>野々村仁清 野々村仁清</p>	<p>第1展示室</p> <p>前田家の名宝 本文を参照下さい。</p>
--	--	--	--	---	--	---	---

平成19年度 美術館バスツアー・現地見学旅行について

当館では毎年、春に日帰りバスツアーを1回、秋に1泊の現地見学旅行を1回行っています。すでにお知らせしている通り、9月3日から改修工事のため1年間休館いたしますので、今年の秋は特別に、もう1回日帰りバスツアーと、1泊の現地見学旅行も2回計画しております。

行き先と予定は右記の通りとなります。それぞれの詳しい予定は後日、美術館だよりで募集要項を掲載いたします。応募の際にはそれぞれの応募要項をお読みになって、行き先と実施日をご確認の上ご応募下さい。いずれも応募者多数の場合は、抽選にて参加者を決定



平成18年バスツアー 瑞龍寺にて

いたしますのでご了承下さい。休館中ではありますが、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

【第37回(平成19年度第1回)文化財現地見学旅行】
見学内容:彦根城と湖東の寺社めぐり(彦根市周辺)
募集要項:来月8月号美術館だよりに掲載します。
実施日:9月29日(土)~30日(日)

【第5回(平成19年度第2回)美術館バスツアー】
見学内容:白山麓の文化財めぐり
(白山市・小松市の美術館・博物館や寺社)
募集要項:9月号美術館だよりに掲載します
実施日:10月下旬

【第38回(平成19年度第2回)文化財現地見学旅行】
見学内容:京都在育んだ日本画家をめぐり
(京都市周辺の美術館・博物館)
募集要項:10月号美術館だよりに掲載します
実施日:11月中旬

ミュージアムレポート

キッズ プログラム鑑賞講座

コレクション展示室の絵画を鑑賞しよう 5月12日(土)

5月のコレクション展示室は、企画展「高光一也の画業」に併せて「高光一也とエコール・ド・金沢」「美の至宝・芸術院会員名品展」を開催していました。中でも第4展示室「芸術院会員名品展」は普段目にする機会が少なく、子どもたちには是非見て貰いたい内容でした。そこで、第4展示室を中心に鑑賞プログラムを行いました。

まずはクイズで頭の体操をして、親子ともにリラックス。少々難易度は高かったものの、親子で一生懸命取り組んでいる姿が、ほほえましく印象的でした。

作品鑑賞では、対話型のギャラリートークに参加して貰いました。作品は絹谷幸二氏の「蒼穹夢譚」を選定し、「何が起きているのか」「どうしてそう思ったのか」を中心に話して貰いました。「後ろの雷神に魂が吸い取られているようだ」「この人は死んでないよ、よく見ると目が開いているもん」など、子どもたちの想像力や観察力には目を見張るものがあり、再発見させられます。こちらの力不足で意見を統合するのに苦労しましたが、子どもたちの純粋な笑顔や言葉に「また機会があれば対話型のギャラリートークを」と思うのでした。



次回(7月14日)は「コレクション展示室の古美術を鑑賞しよう」です。皆様の参加をお待ちしております。

次回は7月14日「コレクション展示室の古美術を鑑賞しよう」です。皆様の参加をお待ちしております。

当日は、5月6日に開催した当館館長の「百工比照について」の講演会をお聞きになり、その内容を踏まえて作品鑑賞に足を運ばれた方が



多い様に思われました。そのため、作品を前にして、その直接的な魅力を紹介する様に心がけたつもりです。

ことに見応えのある金具類には、その意匠性に圧倒されていらっやいました。小松城葎島の御寺書院に使用されていた巻物や結文の釘隠や引手の説明で、その部屋の天井には『源氏物語』などの書物の表紙が寄木で嵌め込んであったことを紹介し、そこからその建物全体の趣を想像していただくことで、高い文化意識を持って治世に臨んでいた利常に想いを馳せる一時を、お客様とともに持つことができました。

百工比照の総点数を聞かれますが非常に難しい質問で、「百聞は一見にしかず」という言葉がぴったりなことは、今回の展示でよくご理解いただけたことと思います。

ギャラリートーク 「百工比照」5月12日(土)

7月の行事案内

《入場無料(ギャラリートークを除く)いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
7/1(日)	ビデオ鑑賞会	作家シリーズ9 楽園のイメージ アンリ・ルソー/田中 一村 (30分) 作家シリーズ10 動く彫刻 ティンゲリー/新宮 晋 (30分)	ホール
7/7(土)	ギャラリートーク	石川ゆかりの芸術院会員・人間国宝 (寺川 和子 学芸主任)	展示室
7/8(日)	ビデオ鑑賞会	作家シリーズ11 「在ることへの問いかけ」 セザンヌ/ジャコメッティ (30分) 作家シリーズ12 創作へのエネルギー ミケランジェロ/円空 (30分)	ホール
7/14(土)	キッズ 鑑賞講座	コレクション展示室の古美術を鑑賞しよう (谷口 出 普及課長)	講義室
7/15(日)	ビデオ鑑賞会	作家シリーズ13 黄金の輝き クリムト/光琳 (25分) 作家シリーズ14 生命の賛歌 ルノワール/棟方 志功 (30分)	ホール
7/21(土)	ギャラリートーク	白山を描くー石川・福井の画家たちー (宮 衛 学芸第2課長)	展示室
7/22(日)	月例映画会	山田貢の友禅 凧 (34分) 磯井 正美のわざ 蒟醬の美 (40分)	ホール
7/28(土)	美術講座	ヴィクトリア アンド アルバート美術館所蔵 浮世絵 (村上 尚子 学芸主任)	講義室
7/29(日)	月例映画会	彫る 棟方 志功の世界 (39分)	ホール
7/31(火)	キッズ 体験講座	第1回 粘土でつくろう! (小学校1・2年生対象)	講義室 ・6月30日で申し込みを締切りました。
8/2(木)	キッズ 体験講座	第2回 工芸に挑戦! (小学校3・4年生対象)	
8/4(土)	キッズ 体験講座	第3回 油絵に挑戦! (小学校5・6年生対象)	

磯の大岩に子供が二人立って海を見えています。広大な海と巨大な岩、これらが存在する長大な時間、それに対し、二人の少女ははかないほどに小さく、またか弱い存在に思えます。

作品を見る私たちは、後方から子供たちを見守る親、あるいは保護者の思いを抱くのではないのでしょうか。そして、いつしか、彼女たちは過去の自分自身でもあるように思えてきます。

作者の卓抜な描写に引き入れられ、父や母、友人たちと遊んだ夏の海での思い出が蘇ります。強い日差しの中に磯の匂いを嗅ぎ、潮騒をいつまでも聞いていた日々を懐かしく思い起こすのです。人は自然にとって何ものなのか、どうあるべきなのか。思いは果てしない潮騒と共に続いていきます。

作者は子供たちをテーマに描き続けてきました。かつては孤独な子供の姿に環境と現代の不安が感じられましたが、やがて子供（人）と世界は共存し、共生に向けて進むかのような、叙情性を画面は持つようになります。それは70歳を超え、画業も50年に達する作者自身の感慨でもあろうかと思われまます。

立ち去りがたい画面です。

2階コレクション展示第3展示室にて展示中。



しお さい
潮騒'05

ばん きょう
判 三教 昭和6年(1931)~

平成17年(2005) 第51回一陽展 縦162.2×横194.0(cm)

[略歴]

昭和6年(1931)能美市(旧辰口町)生まれ。

31年金沢美術工芸大学油画科卒業。

北陸現代作家集団に参加。

41年一陽展に出品。以降毎回出品。

48年一陽展特待賞。54年一陽会会員。56年一陽展審査員

(以降59・62・平成3・7・11・15年審査員)

平成18年、画業50年記念個展開催。

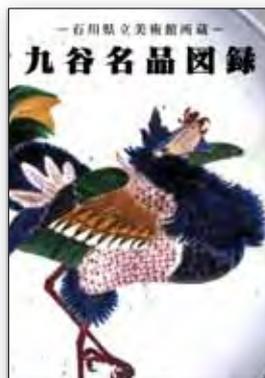
ミュージアムショップ通信

先月はナスカ展をはじめ、コレクション展示室でも甲冑と陣羽織、寺社文化財展など、歴史的な遺産を十分に堪能できたひと月だったのでないでしょうか。

歴史遺産といえば当館の数ある名品の内でも、古九谷は根強いファンを持つ所蔵品の一つです。しばらく品切れしていた図録の改訂版が出ましたのでご紹介します。

「 - 石川県立美術館所蔵 - 九谷名品図録」

今回の改訂版では、最新の作品の画像も加えられて、古九谷から現代の九谷まで通覧することのできる内容となっています。また作品の表面と同じページに作品裏面の写真が掲載され、同時に見比べることができるようになったのも魅力の一つです。解説や資料にも加筆・訂正が加えられました。旧版の図録をお持ちの方も、そうでない方も是非おすすめしたい一冊です。



九谷名品図録 2,000円

次回の当館展覧会

前田育徳会
尊經閣文庫
展示室

前田家の名宝

第2展示室

加賀の美術工芸

第4展示室

白山を描く

- 石川・福井の画家たち -

第6展示室

**夏休み 親子で
楽しむ美術館**

休館日:7月18日(水)~20日(金)

石川県立美術館だより 第285号
2007年7月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp>